

科 目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	指定なし。
参考書	授業内で紹介する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	最新の時事問題を取り上げることも考えられるため、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れていることが望ましい。シラバスの一部変更がありうるが、その際は事前にアナウンスする。

科目的目標	さまざまな社会現象を、学際的な視点から読み解いていく。身近でありながらも普段顧みられることの少ない法や行政制度を、既存の固着化したシステムとしてではなく、生きた人間関係のレベルに引き戻して考える。その他、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生についても理解を深める。
授業概要	社会科学全体を概括的に扱う。映像資料も用いる。

日程

回 数	授業内容
1	社会科学とは何か——社会科学のアウトライン
2	社会とは何か——集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼——その社会的意味、分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
4	社会統計——統計資料の読み方
5	現代社会生活と法①——憲法・刑法・刑事訴訟法
6	現代社会生活と法②——刑事裁判の問題点
7	裁判員制度①——裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の類型
8	裁判員制度②——判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪①——犯罪をめぐる解釈枠組み
10	社会と犯罪②——社会的排除・包摂
11	ネット社会と監視社会①——ネット犯罪と関連法規
12	ネット社会と監視社会②——監視社会と管理社会
13	社会保障と公衆衛生①——医療保険制度、高齢者介護問題
14	社会保障と公衆衛生②——国家試験関連過去問解説
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	山川 幸子	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	高等学校で使用した化学や生物の教科書、資料集。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	高等学校で学習する化学や生物を基礎から勉強します。履修していない場合、毎回、復習すること。次回に小テストで確認します。

科目の目標	専門科目の勉強に向けて基礎力を養う。ヒトの身体の仕組みや体内の反応を理解する力を身につける。
授業概要	中学・高等学校で学習する理科に関する基礎知識を確認・補強する。

日程

回 数	授業内容
1	自然科学の学習における数的基礎知識（1）
2	自然科学の学習における数的基礎知識（2）
3	自然科学　化学分野　（1） 元素と周期表、原子の構造
4	化学分野　（2） イオン・物質の成り立ち（化学結合）
5	化学分野　（3） 化学変化と化学反応式
6	化学分野　（4） 水溶液の性質（酸・塩基とpH）
7	化学分野　（5） 無機物質と有機化合物
8	化学分野　（6） からだを構成する有機化合物
9	生物分野　（1） 細胞の構造とはたらき
10	生物分野　（2） 生命現象とタンパク質
11	生物分野　（3） ヒトの組織と器官　①
12	生物分野　（4） ヒトの組織と器官　②
13	生物分野　（5） ヒトの組織と器官　③
14	生物分野　（6） 遺伝と動物の発生
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	人文科学（医用英語）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教員名	金井 泉寿	教員区分	一般教員

教科書	“English Indicator 2 <Pre-Intermediate>” 及び「配付資料」（授業の都度配布）
参考書	「鍼灸師・柔道整復師のための医学英語」 中村清他著 医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 通学途上などの細切れの時間を活用するなどして、短時間でも毎日英語に触れるなどを推奨する。 2. 授業は、学生主体の「プラクティス」を多用する。授業（プラクティス）に積極的に参加する姿勢を重視する。

科目的目標	教科書及び配布資料に基づき、英語の4技能（「読」「書」「聞」「話」）を総合的にプラクティスして、医療人として必要な語学（英語）能力の基礎を確立する。
授業概要	1. 「読」： エッセイ及び医療系英文を読む訓練を通じ関連用語・語句等を理解 2. 「書」： 整序英作文等を通じ、関連語句等の用法の習得 3. 「聞」： 会話文のリスニングを通じリスニング能力の基礎を確立 4. 「会話」： 施術所等での会話の役割練習を通じ口頭表現要領を習得

日程

回 数	授業内容
1	読・書・聞：“Our Aging Society” 会話：“At the Reception”
2	読・書・聞：“Holiday Memories” 会話：“Patient Registration Form”
3	読・書・聞：“Human Body” 会話：“Medical Information Sheet”
4	読・書・聞：“Sport” 会話：“To the Examination Room”
5	読・書・聞：“Lifestyles” 会話：“Referral Letter”
6	読・書・聞：“Blood Circulation” 会話：“Medical Interview I”
7	読・書・聞：“Sizes” 会話：“Medical Interview II”
8	読・書・聞：“Bathrooms” 会話：“Shoulder Stiffness (I)”
9	読・書・聞：“Judo Therapist” 会話：“Shoulder Stiffness (II)”
10	読・書・聞：“Recycling” 会話：“Shoulder Stiffness (III)”
11	読・書・聞：“Crumbling Britain” 会話：“Comprehensive Training(1)”
12	読・書・聞：“Technology and Us” 会話：“Comprehensive Training(2)”
13	読・書・聞：“Judo Therapy Treatment” 会話：“Comprehensive Training(3)”
14	読・書・聞：“Manual Therapy Techniques” 会話：第11～14回の演練
15	定期試験
16	定期試験解答と解説、総合復習

科 目	身体と科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	丹波 正志	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	必要に応じて指示する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目的目標	体力の構成要素を学び、医学用語に触れながら身体の基礎を学ぶ。
授業概要	身体のメカニズムを理解し、身体運動の骨・筋・関節の働き、体力など身体活動の概要を説明する。

日程

回 数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	身体運動のしくみ
3	身体動作分析 1
4	身体動作分析 2
5	身体動作分析 3
6	身体動作分析 4
7	身体動作分析 5
8	トレーニング科学 1
9	トレーニング科学 2
10	トレーニング科学 3
11	トレーニング科学 4
12	スポーツ傷害 1
13	スポーツ傷害 2
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	人間学Ⅲ（心理学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	加藤 美生	教員区分	一般教員

教科書	指定なし（毎回の授業でプリント冊子を配布し利用する。）
参考書	石川ひろの et al、人間関係論（医学書院 第3版 2018）
成績評価	定期試験、小テスト等による総合評価とする。
留意事項	

科目の目標	全般的医療を提供するために必要な心理学の基礎を理解し、応用できるようになる。
授業概要	医療現場における人間関係、そして人間と社会の関わりについて学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第1部人間関係基礎論 第1章人間関係の中の自己と他者
2	第1部人間関係基礎論 第2章対人関係と役割
3	第1部人間関係基礎論 第3章態度と対人行動
4	第1部人間関係基礎論 第4章集団と個人
5	第1部のまとめ
6	第2部人間関係をつくる理論と技法 第1章コミュニケーション
7	第2部人間関係をつくる理論と技法 第2章カウンセリングと心理療法
8	第2部人間関係をつくる理論と技法 第3章コーチング
9	第2部人間関係をつくる理論と技法 第4章アサーティブ・コミュニケーション
10	第2部のまとめ
11	第3部保健医療における人間関係 第1章保健医療チームの人間関係
12	第3部保健医療における人間関係 第2章患者や家族を支える人間関係
13	第3部保健医療における人間関係 第3章地域をつくる人間関係
14	第3部のまとめ
15	定期試験
16	試験の解説

科 目	解剖学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	宮宗 秀伸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「入門人体解剖学」 南江堂、「プロメテウス解剖学コアアトラス」 医学書院、授業中に配布する資料
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	人体解剖学概説では、これから学んでいく解剖学とはどのような学問であるかを知る。運動系の中の骨格系では、骨が人体の立体的構築や運動系に果たす役割を理解する。さらに各自の体に骨格を投影し、個々の骨を実感する。
授業概要	人体解剖学概説では解剖学について、また人体を構成する細胞、組織、器官について、広く講義する。骨格系では人体を構成する全ての骨とその連結、運動について詳細に学んでいく。さらに小テストなどを通じて、基礎的な知識を応用する力を身に付ける。

日程

回 数	授業内容
1	解剖学の意義と分類、解剖学用語（方向、位置、人体各部の名称）
2	細胞、組織、器官、器官系、発生
3	人体の区分、再区分、区分線
4	骨格系総論（役割、分類、構造、発生と成長、用語）
5	脊柱
6	脊柱と胸郭
7	上肢骨
8	下肢骨
9	全身の骨、骨の連結（関節）
10	上肢の連結
11	下肢の連結
12	頭蓋骨（脳頭蓋）
13	頭蓋骨（顔面頭蓋）
14	骨格系のまとめ
15	定期試験
16	解説

科 目	生理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	石野竜平	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学 Iにおいては、生理学の基礎、体液と血液の生理、そして循環器系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って国家試験に必要な生理学の知識を深めていく。適宜、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら進める。

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素
2	生理学の基礎：ホメオスタシス、からだの化学的構成
3	生理学の基礎：細胞の機能的構造、DNAの複製とタンパク質合成
4	生理学の基礎：物質の移動（拡散、浸透、ろ過）と輸送
5	血液の生理学：血液の役割、血液の組成
6	血液の生理学：免疫機構
7	体液の生理学：体液の区分と組成、体液恒常性を維持するしくみ
8	血液の生理学：血液型、血液の凝固
9	循環の生理学：心臓の機能①
10	循環の生理学：心臓の機能②
11	循環の生理学：血管系
12	循環の生理学：循環の調節
13	循環の生理学：局所循環
14	循環の生理学：脳脊髄液
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	実技試験、出席点で評価する。
留意事項	実技中の安全管理。

科目的目標	柔道実技を通して人として、医療人としての心の教育をする。 柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解を深め、3年間で初段の習得を目指す。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを説く。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方 柔道衣の着方
2	柔道の基礎知識 礼法
3	受身 - 後受身
4	受身 - 横受身
5	受身 - 前受身、前方回転受身
6	基本動作（体捌き、崩し）
7	投の形 浮落 ①
8	投の形 浮落 ②
9	投の形 背負投 ①
10	投の形 背負投 ②
11	投の形 肩車 ①
12	投の形 肩車 ②
13	投の形 復習
14	実技試験
15	乱取・寝技
16	まとめ

科 目	柔道整復学総論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	安海 弘晃	教員区分	一般教員

教科書	柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席を目標にする。 2. 各週の予習・復習を怠らない。予め教科書を読んで、読めない漢字を調べておく。 3. 私語およびスマートフォンの使用は禁止。

科目の目標	1. 柔道整復師の業務内容を理解する。 2. 骨の形態、機能を理解する。 3. 「骨折」についての基礎を理解する。
授業概要	プリント資料を配布しパワーポイント、板書で授業を進めていく。 各損傷で確認の小テストを行う。

日程

回 数	授業内容
1	授業の説明 柔道整復師の業務説明
2	各組織の損傷（骨の損傷—骨の形態と機能①）
3	各組織の損傷（骨の損傷—骨の形態と機能②）
4	各組織の損傷（骨損傷の分類①）
5	各組織の損傷（骨損傷の分類②）
6	各組織の損傷（骨の損傷—骨折の症状①）
7	各組織の損傷（骨の損傷—骨折の症状②）
8	各組織の損傷（骨の損傷—骨折の合併症①）
9	各組織の損傷（骨の損傷—骨折の合併症②）
10	各組織の損傷（骨の損傷—骨折の合併症③）
11	小児の骨折の特徴・高齢者骨折の特徴
12	骨癒合の日数、骨折の治癒過程
13	骨折の予後、治癒に影響を与える因子
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	田代 雅人	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	必要に応じて参考資料を配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	欠席・遅刻をせず、ノートをしっかりと取ること。また、説明をよく聞き、理解を伴った記憶をすること。復習を怠らないこと。

科目の目標	柔道整復術と柔道整復師の概説を知る。損傷に関する身体の基礎的状態と外力を理解する。関節の構造を学びながら、脱臼についての基礎を理解する。
授業概要	板書を中心に展開するため、A4サイズのノートまたはルーズリーフを用意すること。 授業の冒頭に確認小テストを行う。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス 概説
2	人体に加わる力、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷 関節の損傷(関節の構造と形態①)
4	各組織の損傷 関節の損傷(関節の構造と形態②)
5	各組織の損傷 関節の損傷(関節損傷の概説・分類・鑑別診断)
6	各組織の損傷 関節の損傷(関節構成組織損傷①)
7	各組織の損傷 関節の損傷(関節構成組織損傷②)
8	各組織の損傷 関節の損傷(関節構成組織損傷③)
9	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼)①
10	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼)②
11	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼)③
12	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼)④
13	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼)⑤
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	柔道整復学総論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験より評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 予め教科書を読んで、読めない漢字を調べておく。 3. 復習はその日のうちに行う。 4. 授業中、私語は禁止。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の総論を教科書に沿って配布プリント、板書にて進めていく。 授業開始時に前回の復習テストを行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方
2	柔道整復術および柔道整復師の沿革
3	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領
4	各組織の損傷 筋の損傷①
5	各組織の損傷 筋の損傷②
6	各組織の損傷 筋の損傷③
7	各組織の損傷 筋の損傷④
8	筋の損傷復習
9	各組織の損傷 腱の損傷①
10	各組織の損傷 腱の損傷②
11	各組織の損傷 末梢神経の損傷①
12	各組織の損傷 末梢神経の損傷②
13	腱の損傷、末梢神経の損傷復習
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復基礎実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教員名	加藤 大明	教員区分	実務教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	
成績評価	実技試験を中心出席状況、身だしなみ、授業態度で評価する。
留意事項	実習着を着用する。施行部位に合わせ素肌が露出できるようにする。

科目の目標	この科目では固定法を理解し、柔道整復師として必要な基本包帯法の習得を目標とする。また、常に適切な態度で実習に臨むことにより医療人としての心、態度を養う。
授業概要	巻軸包帯、晒などの材料を用いた包帯法を実演し説明する。学生が施術者、助手、患者モデルになり基本包帯法をお互いに繰り返し実習する。医療人に相応しい態度、話し方で行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床で治療に用いた柔道整復術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス 固定法について ー 目的・種類・肢位・期間・範囲・材料、材料確認
2	基本包帯法1 晒包帯作成・三角巾のたたみ方
3	基本包帯法2 巾巻軸の巻き方、巻き戻し、肘部（亀甲帯）
4	小テスト①、部位別包帯法 ー 前腕部（折転帯）
5	小テスト②、部位別包帯法 ー 肩部（麦穂帯）
6	小テスト③、部位別包帯法 ー 膝部（亀甲帯）、股関節部（麦穂帯）
7	小テスト④、部位別包帯法 ー 下腿部（折転帯）、足関節部（亀甲帯）
8	小テスト⑤、部位別包帯法 ー 足関節（麦穂帯・三節帯）
9	小テスト⑥、部位別包帯法 ー 手関節（麦穂帯）、手指部（麦穂帯）
10	小テスト⑦、冠名包帯法（デゾー包帯）
11	冠名包帯法（ヴエルポー包帯、ジュール包帯）
12	部位別・冠名包帯法まとめ①
13	部位別・冠名包帯法まとめ②
14	実技試験
15	試験解説とまとめ
16	総括

科 目	柔道整復基礎実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	関 凌真	教員区分	実務教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「柔道整復学・理論編 第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	実技試験、出席点で評価する。
留意事項	実習着を着用する。テープング施行部位に合わせ素肌を露出でき、テープングを巻かれやすいよう準備する。下肢の場合、実習着の下はハーフパンツ等とする。

科目の目標	この科目では柔道整復師として必要なテープングの習得を目標とする。
授業概要	ホワイトテープを用いてテープングを実演し説明する。続いて、学生が施術者、助手、患者モデルになりテープングをお互いに繰り返し実習する。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	接骨院にて施術に使用しているテープングを授業で行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	テープングの基礎1 - 特徴・原理・目的・効果・種類・道具
3	テープングの基礎2 - 扱い方・基本の巻き方
4	部位別テープング1 - 足関節①
5	部位別テープング2 - 足関節②
6	部位別テープング3 - 足関節①・②復習
7	部位別テープング4 - 膝関節
8	部位別テープング5 - 大腿部・腰部
9	部位別テープング6 - 手関節
10	部位別テープング7 - 手指
11	部位別テープング8 - 足底・足趾
12	総復習
13	実技試験①
14	実技試験②
15	試験解説まとめ
16	授業総括

科 目	柔道整復診察法 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「解剖学 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	実技試験、小テストで評価する。
留意事項	実習着の下は素肌を露出できる衣類を着用し、実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	1. 臨床の基礎となる部位名称、骨や筋・腱付着部などの正しい名称、位置を理解する。 2. 徒手検査の基本となる可動域や四肢の長さ、周径の測定方法を理解する。
授業概要	分骨模型を使用し、骨の名称や部位を確認する。角度計を使用し、関節可動域や四肢の長さや周径などを測定する。授業の始めに前回範囲の小テストを行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床で治療に用いた柔道整復術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	自己紹介 授業の説明 体表区分①
2	体表区分② 觸診
3	上肢の骨の名称と位置① 骨模型使用
4	下肢の骨の名称と位置② 骨模型使用
5	体表から触れる骨と指標となる名称
6	上肢の筋の名称と働き 觸診
7	下肢の筋の名称と働き 觸診
8	体幹の筋の名称と働き 觸診
9	測定法、四肢長、周径
10	拍動の触れる動脈、血圧、脈拍
11	上肢の関節可動域の測定とMMT
12	下肢の関節可動域の測定とMMT
13	実技試験内容の確認と復習
14	実技試験
15	試験解説
16	授業のまとめ

科 目	人間学 I (哲学的人間学)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	吉川 竹明	教員区分	一般教員

教 科 書	指定なし（毎回の授業で授業プリント冊子を配布し、利用する。）
参考書	「知る、考える裁判員制度」竹田昌弘 岩波ブックレット 「正義論の名著」中山元 ちくま新書 「教養としての哲学」小川仁志 P H P 研究所 「社会契約論」重田園江 ちくま新書 「社会思想の歴史」生松敬三 岩波現代文庫 など
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業の進行に合わせ、授業内でレポートを書くことがあります。

科目の目標	言葉の定義や理性・論理性を高めることを目標に、価値観の多様性を理解するとともに自己の倫理観・価値観を見つめなおす。コミュニケーションの前提となる言葉の定義や論理性を身に着ける。
授業概要	西洋哲学の代表的「哲学家」の説を取り上げ、上記の「科目の目標」に迫っていく。また、代表的な哲学用語を取り上げ、その理解を通して、「哲学家」の説への理解を深めていく。自分なりに思考し、文章化することが求められる。さらに、論理パズルなどを通し、論理性を高めていく。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス アンケート グループづくり 論理パズル①
2	「正しい」「正義」「善いこと」とは何か 1 最大多数の最大幸福とは ベンサムとミル 論理パズル②
3	「正しい」「正義」「善いこと」とは何か 2 ロールズの「正義論」 平等と公正とは 論理パズル③
4	「正しい」「正義」「善いこと」とは何か 3 コミュニタリアニズムとリバタリアニズム サンデルとノージック 論理パズル④
5	「自分」とは何か 1 自分について把握する エゴグラムとOKグラムから見た自己 論理パズル⑤
6	「自分」とは何か 2 精神の存在と汎神論 デカルトとスピノザ 論理パズル⑥
7	「自分」とは何か 3 イギリス経験論 ベーコン・ロック・ヒューム 論理パズル⑦

8	「自分」とは何か 4 実存主義 キルケゴール・サルトル・ヤスパース 論理パズル⑧
9	「社会」とは何か 1 イデアと哲人国家 プラトン 論理パズル⑨
10	「社会」とは何か 2 社会契約説 ホップス・ロック・ルソー 論理パズル⑩
11	「社会」とは何か 3 弁証法 ヘーゲルとマルクス 論理パズル⑪
12	「社会」とは何か 4 見えない権力と常識 フーコー 論理パズル⑫
13	安樂死（尊厳死）の是非 論理パズル⑬
14	幸福とは何か 論理パズル⑭
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	人間学Ⅱ（生命倫理学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	岡村 和彦	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	小泉博明 他 『テーマで読み解く生命倫理』(教育出版) 青木清 『生命倫理・医事法』(医療科学社) 塩野寛 他 『生命倫理への招待』(南山堂) 盛永審一郎 『医学生のための生命倫理』(丸善出版) 今中雄一 『「病院」の教科書』(医学書院)
成績評価	1. 小テスト（6回目に実施予定で、通常の欠席については0%とする。）10% 2. リフレクションシート・ポートフォリオ（出席・授業態度を含む）40% 3. 定期試験 50% 以上にて評価する。
留意事項	出席と授業態度（居眠りの有無、臨む姿勢等）は特に重視する。

科目の目標	1. 現代社会の生命倫理の諸問題に関する基礎知識及びその問題点に対する理解を深める。 2. 自己及び他者を尊重することの意味について学ぶ。 3. 医療現場で倫理的問題に直面した場合の対応方法を身につける。
授業概要	近年、医療技術や科学技術の進歩により、生命倫理に関する社会的注目が高まっている。医療従事者を目指す学生は、倫理とは実践が伴うものであることを理解し、専門知識の習得のみならず、「患者」や「実際の医療の現場」という視点を持って生命倫理に関する問題を考察することで、より高い倫理観を養い、人間性を高めることができる。この授業においては、倫理に関する時事ニュース、脳死や臓器移植、QOLや生殖技術、さらには遺伝子に関する問題を取り上げるだけでなく、実際の医療現場や柔道整復と倫理の関係性や問題点等の具体的な内容についてもケースメソッド（あるいはケーススタディ）を通して考察し、近い将来に医療現場で有益となる倫理観を涵養する。

日程

回 数	授業内容
1	生命倫理学とは（概論）、原則、生命観、医学とは何か、医療専門職とは、医療と倫理①
2	健康・病気・医療とは、病者への差別、薬害エイズ事件等、医療と倫理②
3	現在の医療機関に問われるもの、医療制度、医療と倫理③
4	医療と法と倫理、医療行為と倫理、医療と倫理④
5	インフォームド・コンセント、患者と医師・医療従事者の関係、医療と倫理⑤
6	患者の権利と生命倫理、自己決定権、子どもの権利、小テスト
7	患者対応力、性格の見分け方、医療従事者に求められる実践的コミュニケーションスキル、医療と倫理⑥
8	人生の終え方、ターミナルケアとQOL、認知症、終末期医療、医療と倫理⑦

9	脳死・臓器移植、心臓移植と脳死、ドナーとリビングウィル
10	生殖技術、人工授精、体外受精、代理懐胎、出生前診断・着床前診断、人工妊娠中絶、医療と倫理⑧
11	医療における安全、医療事故・過誤、医療施設でのエラーの考え方・分析手法・防止策、医療と倫理⑨
12	医療の質、医療におけるリスクマネージメント、様々なリスク対策ツール、個人情報等、医療と倫理⑩
13	遺伝、DNA、細胞・染色体・ゲノム、再生医療、クローン、医療と倫理⑪
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験解説等

科 目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	運動器の基幹要素である筋肉の名称・付着部位・起始停止について理解する。
授業概要	全身の筋肉を既習した骨格系に付加する形で、その構成を俯瞰的に捉え、柔道整復領域における主要な筋肉の位置・形態・特徴等を把握出来るように学習する。

日程

回 数	授業内容
1	骨格筋・頭部の筋・頸部の筋①
2	頸部の筋②
3	胸部の筋・呼吸運動
4	腹部の筋
5	背部の筋①
6	背部の筋②
7	上肢の筋①（上肢帶・上腕）
8	上肢の筋②（前腕）
9	上肢の筋③（手の筋）
10	下肢の筋①（下肢帶の筋）
11	下肢の筋②（大腿の筋）
12	下肢の筋③（下腿の筋）
13	下肢の筋④（足の筋）
14	全範囲まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	解剖学III	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	北原 秀治	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「入門人体解剖学」南江堂、「標準組織学総論」医学書院、授業中に配布する資料
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	人体解剖学概説では、これから学んでいく解剖学とはどのような学問であるかを知る。脈管系、消化器系が果たす役割を理解する。
授業概要	人体解剖学概説では解剖学について、また人体を構成する細胞、組織、器官について広く講義する。脈管系、消化器系では人体を構成する全ての脈管と消化器の構造、機能について詳細に学んでいく。さらに小テストを通じて、基礎的な知識を応用する力を身に付ける。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス、脈管系、消化器系総論
2	脈管系組織学
3	脈管系解剖学 1
4	脈管系解剖学 2
5	循環器系（心臓、肺循環、胎児循環）
6	リンパ系組織（リンパ管、リンパ節、リンパ組織、脾臓）
7	循環器系病態解剖学、循環器系演習問題
8	消化器 1（口腔、咽頭）
9	消化器 2（食道、胃）
10	消化器 3（小腸、大腸、肛門）
11	消化器 4（肝臓）
12	消化器 5（胆嚢、脾臓）
13	消化器 6（消化器系病態解剖学、消化器系演習問題）
14	総復習、試験対策演習問題
15	定期試験
16	試験解説、解剖学まとめ

科 目	解剖学IV	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	宮宗 秀伸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	特になし。
成績評価	定期試験により評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	1. 呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系について、基本的な事項を理解する。 2. 1についてさらに、国家試験出題に準じた理解を深める。
授業概要	教科書をベースとし、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系について概説する。

日程

回 数	授業内容
1	呼吸器① 呼吸器の概要
2	呼吸器② 外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支
3	呼吸器③ 肺、胸膜、縦隔
4	泌尿器① 泌尿器の概要
5	泌尿器② 腎臓
6	泌尿器③ 尿管、膀胱、尿道
7	生殖器① 生殖器の概要
8	生殖器② 男性生殖器
9	生殖器③ 女性生殖器
10	生殖器④ 胎盤、初期発生
11	内分泌系① 内分泌系の概要
12	内分泌系② 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体
13	内分泌系③ 副腎、膵臓、精巣、卵巣
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解説

科 目	生理学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	石野 竜平	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと。随時小テストを行う。

科目的目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目においては、生理学の基礎、呼吸、消化吸収、栄養代謝、体温調節についての知識を習得する。
授業概要	教科書に沿って国家試験に必要な生理学の知識を深めていく。随時小テストを行い、理解の度合いを確認しながら進める。

日程

回 数	授業内容
1	呼吸①：呼吸器の機能的構造、換気
2	呼吸②：ガス交換、血液中の酸素の運搬
3	呼吸③：血液中の二酸化炭素の運搬、呼吸を調節するしくみ
4	呼吸④：呼吸の異常、特殊環境下の呼吸、人工呼吸
5	消化と吸収①：消化器系のはたらき、消化管の運動とその調節
6	消化と吸収②：消化液の分泌機序
7	消化と吸収③：消化
8	消化と吸収④：吸収、消化管ホルモン
9	消化と吸収⑤：肝臓と胆道系
10	栄養と代謝①：代謝
11	栄養と代謝②：中間代謝
12	栄養と代謝③：エネルギー代謝
13	体温①：体温、体温の生理的変動、体内における熱の産生
14	体温②：熱放散、体温の調節、うつ熱と発熱、気候馴化
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学III	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験にて評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	生体は生命を維持するために内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学IIIにおいては、泌尿器系、内分泌系、生殖系および骨の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。隨時小テストを行い理解の度合いを確認しながら進める。

日程

回 数	授業内容
1	尿の生成と排泄①：腎の構造と機能
2	尿の生成と排泄②：尿生成、クリアランス
3	尿の生成と排泄③：尿細管における再吸收
4	尿の生成と排泄④：尿細管における分泌、尿成分、排尿
5	内分泌系の機能①：内分泌腺、ホルモンの一般的性質・種類と作用
6	内分泌系の機能②：視床下部・下垂体ホルモン
7	内分泌系の機能③：甲状腺ホルモン
8	内分泌系の機能④：副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン
9	内分泌系の機能⑤：膵ホルモン、性ホルモン、その他のホルモン
10	生殖①：染色体、性分化、男性の生殖
11	生殖②：女性の生殖
12	生殖③：妊娠、分娩、乳汁分泌
13	骨の生理学①：骨の形成と代謝
14	骨の生理学②：物質の代謝、骨の疾患
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	特になし。
成績評価	実技試験にて評価する。
留意事項	柔道実技の反復練習。実技中の安全管理。

科目の目標	柔道実技を通して人として、医療人としての心の教育。 柔道整復師として基本的な柔道の心と技について理解を深めるとともに、武道の心得と技、ならびにスポーツとしての柔道を学ぶ。 3年間で初段の習得を目指す。
授業概要	柔道の代表的な技の理解、投の形、寝技の乱取り、立技の乱取り稽古を習得させる。

日程

回 数	授業内容
1	基本動作 手技（背負投）1 立技打込み 礼法
2	基本動作 手技（背負投）2 立技打込み 寝技乱取 約束稽古
3	基本動作 手技（背負投）3 立技打込み 寝技乱取 約束稽古
4	基本動作 手技（浮 落）1 立技打込み 寝技乱取 約束稽古
5	基本動作 手技（浮 落）2 立技打込み 寝技乱取 約束稽古
6	基本動作 手技（浮 落）3 立技打込み 寝技乱取 約束稽古
7	基本動作 手技（肩 車）1 立技打込み 寝技乱取 約束稽古
8	基本動作 手技（肩 車）2 立技打込み 約束稽古及び乱取
9	基本動作 手技（肩 車）3 立技打込み 約束稽古及び乱取
10	基本動作 手技のまとめ1 立技打込み 約束稽古及び乱取
11	基本動作 手技のまとめ2 立技打込み 約束稽古及び乱取
12	基本動作 手技のまとめ3 形としての一連の流れ
13	実技試験1
14	実技試験2
15	解説
16	総復習

科 目	柔道整復学総論IV	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	安海 弘晃	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布し使用する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	1. 全授業出席を前提とし、予習・復習を怠らないこと。 2. 授業中の私語は禁止。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。

科目の目標	一般的な診察および治療法を学習する。
授業概要	診察・治療法の原理原則について教科書に沿って進めていく。

日程

回 数	授業内容
1	診察①
2	診察②
3	整復法① 徒手整復施工時の配慮
4	整復法② 骨折の整復法
5	整復法③ 骨折の整復法
6	整復法④ 脱臼の整復法
7	整復法⑤ 脱臼の整復法
8	軟部組織損傷
9	固定法①
10	固定法②
11	固定後の配慮
12	後療法①
13	後療法②
14	試験内容の確認と復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	1. 教科書を必ず持参する。 2. 予習、復習を怠らない。 3. プロジェクターで説明する。 4. 授業中、私語・居眠りは絶対しない。

科目の目標	頭部顔面および脊椎部の疾患を学び、各論を理解する。
授業概要	各部位の機能解剖を学び、疾患への理解を深め、頭部、顔面部および脊椎部の症例に関する知識を習得していく。

日程

回 数	授業内容
1	頭部、顔面部の解剖と機能
2	頭部、顔面部の骨折①
3	頭部、顔面部の骨折②
4	頸関節脱臼①
5	頸関節脱臼②
6	頭部、顔面部の軟部組織損傷
7	頸椎の解剖と機能
8	頸椎の骨折①
9	頸椎の骨折②
10	頸椎脱臼
11	頸部の軟部組織損傷①
12	頸部の軟部組織損傷②
13	注意すべき疾患①
14	注意すべき疾患②
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復基礎実技III	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	加藤 大明	教員区分	一般教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	実技試験を中心出席状況、身だしなみ、授業態度にて評価する。
留意事項	実習着を着用する。施行部位に合わせ素肌が露出できるよう、Tシャツ、ハーフパンツ等を着用する。実習は医療人に相応しい態度、話し方で行う。

科目の目標	この科目では固定法を理解し、柔道整復師として必要な基本的な固定技能の習得を目標とする。また、常に適切な態度で実習に臨むことにより医療人としての心、態度を養う。
授業概要	巻軸包帯に加え、各種固定材料を用いた包帯法を実演し説明する。学生が施術者、助手、患者モデルになりお互いに繰り返し実習する。

日程

回 数	授業内容
1	晒による固定①
2	晒による固定②、投石帶
3	厚紙副子（作成）
4	厚紙副子（固定）
5	クラーメル金属副子（作成）
6	クラーメル金属副子（固定）
7	アルミ副子（作成・固定）
8	吸水硬化性キャスト材（作成）
9	吸水硬化性キャスト材（固定）
10	ギプス（作成・固定）
11	熱可塑性キャスト材（作成）
12	熱可塑性キャスト材（固定）
13	固定復習
14	実技試験
15	試験解説とまとめ
16	総括

科 目	柔道整復基礎実技IV	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	関 凌眞	教員区分	一般教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	実技試験、出欠席状況にて評価する。
留意事項	実習着を着用する。テープを用いてテープを実演し説明する。続いて、学生が施術者、助手、患者モデルになりテープをお互いに繰り返し実習する。

科目の目標	柔道整復師として必要なテープ技能の習得を目標とする。
授業概要	伸縮テープを用いてテープを実演し説明する。続いて、学生が施術者、助手、患者モデルになりテープをお互いに繰り返し実習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 前期復習 テーピングの基礎 ー 伸縮テープの基礎
2	部位別テーピング ー 肩関節1
3	部位別テーピング ー 肩関節2
4	部位別テーピング ー 肘関節・前腕
5	部位別テーピング ー 手関節
6	部位別テーピング ー 膝関節1
7	部位別テーピング ー 膝関節2
8	部位別テーピング ー 足関節1
9	部位別テーピング ー 足関節2
10	部位別テーピング ー 足部
11	総復習1
12	総復習2
13	実技試験1
14	実技試験2
15	試験解説まとめ
16	授業総括

科 目	柔道整復診察法Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	高橋 洋一・関 凌眞	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出欠席状況、授業態度などにて総合的に評価を行う。
留意事項	実習着を着用する。医療人としての身嗜みを心がける。

科目の目標	1. 医療面接の意義を理解し、その技法を実践できる。 2. 身体各部の主要な構造を理解し、主要な身体診察の技法を実践できる。 3. 施術録は療養費申請書時の重要なツールであることを理解できる。 4. 柔道整復施術に用いる基本的な手技ができる。 5. 自ら考える力を身に付ける。
授業概要	柔道整復師が臨床において必要な手法を実演し説明する。続いて、学生が施術者、患者モデルになりお互いに繰り返し実習する。

日程

回 数	授業内容	
1	オリエンテーション、医の倫理、レポートの書き方	(関)
2	医療者としての態度1(身嗜み、言葉遣い、規律性)	(関)
3	医療者としての態度2(コミュニケーション)	(関)
4	守秘義務 個人情報	(関)
5	付帯義務(施設衛生)	(関)
6	診察1(医療面接、触診など)	(高橋)
7	診察2(計測、検査法、評価)	(高橋)
8	リスクマネジメント 柔道整復術	(高橋)
9	包帯術(ケア带を使用した包帯固定)	(高橋)
10	テーピング技術	(関)
11	後療法(物理療法、手技療法)	(高橋)
12	介助(案内、ベッド移乗、上下肢台設定)	(関)
13	症例検討(症例報告の作成)	(関)
14	施術録の作成(問題思考型記録の叙述的経過記録方式)	(関)
15	社会保障(療養費支給申請書の書き方)	(高橋)
16	まとめ	(高橋)

科 目	柔道整復診察法Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 「リハビリテーション医学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 その他用いる資料や教本は毎回紹介し適宜プリント資料を配布する。
成績評価	提出物、出欠席状況（授業態度）、実技試験にて評価する。
留意事項	実習着を着用する。身体各部の計測を行うので、実習着の下にはTシャツやハーフパンツ、ショートスパッツなど、素肌を露出できるような衣類を着用する。実技実習受講についての注意事項に準ずる。実際の臨床の場を想定し医療人に相応しい態度、話し方で行う。

科目の目標	1. 解剖学で学んだ筋骨格系を再度触診により名称、位置を理解する。 2. 徒手検査の基本となる関節可動域や四肢の長さ、周径の測定方法を理解する。 3. 各種検査法の意義と手順を理解する。
授業概要	術者役、患者役になりお互いを測定・検査する。

日程

回 数	授業内容
1	授業ガイダンス バイタルサイン（意識・呼吸・脈拍・血圧）
2	上肢の関節可動域の測定①
3	上肢の関節可動域の測定②
4	下肢の関節可動域の測定①
5	下肢の関節可動域の測定②
6	体幹の関節可動域の測定
7	その他の関節可動域の測定
8	上・下肢の長さと周径の測定
9	感覚検査（表在・深部・複合感覚検査）
10	反射検査①（表在反射・深部腱反射・病的反射・間代・自律神経反射）
11	反射検査②（表在反射・深部腱反射・病的反射・間代・自律神経反射）
12	試験内容の確認と復習
13	実技試験①
14	実技試験②
15	試験解説
16	授業のまとめ

科 目	解剖学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	北原 秀治	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「入門人体解剖学」 南江堂、「プロメテウス解剖学コアアトラス」 医学書院、授業中に配布する資料
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	神経系の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経、感覚器の構造と役割を説明できる。
授業概要	中枢神経系、末梢神経系および感覚器の解剖学を講義する。

日程

回 数	授業内容
1	神経系の区分と特徴、神経組織および基礎
2	中枢神経：灰白質、白質、神経節と根、中枢神経系の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液
3	中枢神経：脳各部の形態と機能・終脳と間脳
4	中枢神経：脳各部の形態と機能・中脳、橋、延髄、小脳
5	中枢神経：脊髄の区分、伝導路、中枢神経練習問題
6	末梢神経：脳神経1
7	末梢神経：脳神経2、脊髄神経1
8	末梢神経：脊髄神経2、皮膚分節
9	末梢神経：交感神経と副交感神経1
10	末梢神経：交感神経と副交感神経2、末梢神経練習問題
11	感覚器：外皮、視覚器
12	感覚器：聴覚器、味覚器、嗅覚器
13	体表解剖、感覚器および体表解剖練習問題
14	練習問題および解説、試験対策
15	定期試験
16	定期試験の解説および神経講義総括

科 目	生理学IV	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第3版」 社団法人 全国柔道整復学校協会編 根来英雄・貴邑富久子著
参考書	特に指定しない。
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験にて評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと。

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学IVにおいては、神経系および感覚系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら、進める。

日程

回 数	授業内容
1	神経の基本的機能：神経細胞の形態、静止膜電位と電位形成の仕組み
2	神経の基本的機能：活動電位発生の仕組みとイオンチャネル
3	神経の基本的機能：興奮の伝導（軸索）と伝達（シナプス）
4	神経系の機能：成り立ち、末梢神経系、中枢神経系
5	神経系の機能：内臓機能の調節、視床下部による調節
6	神経系の機能：姿勢と運動の調節
7	神経系の機能：脊髄、脳幹
8	神経系の機能：小脳、大脳基底核
9	神経系の機能：大脳皮質
10	感覚の生理学：感覚の種類、感覚の一般的性質
11	感覚の生理学：体性感覚、内臓感覚
12	感覚の生理学：嗅覚と味覚、聴覚
13	感覚の生理学：視覚
14	感覚の生理学：前庭感覚
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第3版・追加資料」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	生体活動における機械力の発生装置である「筋肉」についての構造と機能について理解する。 高齢者の生理機能と健常成人との違いについて理解する。 競技者の生理機能についての概要を把握する。トレーニングに伴う生体機能変化の特徴を理解する。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回 数	授業内容
1	姿勢と運動の調節：運動の調節の仕組み・骨格筋の感覚器①
2	姿勢と運動の調節：骨格筋の感覚器②、筋の機能：筋の種類と特徴、骨格筋の構造①
3	筋の機能：筋の種類と特徴、骨格筋の構造②
4	筋の機能：筋収縮のしくみ①
5	筋の機能：筋収縮のしくみ②
6	筋の機能：筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方
7	筋の機能：筋肉の長さと張力の関係、筋収縮のエネルギー、筋の熱発生、筋電図
8	筋の機能：平滑筋・心筋
9	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化①
10	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化②
11	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化③
12	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化④
13	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化⑤
14	1～13回復習・確認・まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	運動学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「運動学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「解剖学 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 「生理学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	

科目的目標	運動学の概念を理解する。 身体を構成している骨格を神経一筋の統合処理によって生じる「動（運動）」と「静（姿勢）」の仕組みとその役割について理解することを目標とする。
授業概要	身体運動に関する基本的な考え方について学習する。 姿勢や運動を構成する神経一筋骨格系の関連性について学習する。 (姿勢と歩行運動・運動機能発達・運動学習（トレーニング）による運動技能獲得の過程)

日程

回 数	授業内容
1	運動学の目的・運動の表し方、身体運動と力学①
2	身体運動と力学②
3	身体運動と力学③
4	姿勢（姿勢の分類、重心、立位姿勢）
5	姿勢（立位姿勢の制御）
6	歩行（歩行周期、歩行の運動学的分析①）
7	歩行（歩行周期、歩行の運動学的分析②）
8	歩行（歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動①）
9	歩行（歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動②）
10	歩行（歩行のエネルギー代謝、異常歩行）
11	運動発達（神経組織の成熟、乳幼児の運動発達（反射・反応、出生早期にみられる反射））
12	運動発達（乳幼児の運動発達：全身運動、歩行運動、上肢運動の発達）
13	運動学習①
14	運動学習②、第1・2・3・9・10・11・12章補足およびまとめ
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	病理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験により評価する。
留意事項	病理学が関連する全身の影響に関して常に考えることを教育する。

科目的目標	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。
授業概要	教科書の重要項目について解説し、繰り返し問題演習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	病理診断、染色法、退行性病変① 婆縮（分類）
2	退行性病変② 婆縮、変性（定義と分類）、壞死（壞死とアポトーシス）
3	代謝異常と疾患、循環障害① 循環系の概要
4	循環障害② 循環系の概要（充血、うつ血、虚血、出血）
5	循環障害③ 血液循環障害（血栓症、塞栓症、梗塞）
6	循環障害④ リンパ循環障害（浮腫の成因）、進行性病変 肥大（分類）
7	進行性病変① 再生（細胞の再生能力）、化生
8	進行性病変② 肉芽組織（創傷の治癒と異物の処理）
9	進行性病変③ 移植、炎症における循環障害
10	炎症① 形態学的变化、分類（滲出性炎、炎症における循環障害）
11	炎症② 形態分類
12	炎症と免疫機構について①
13	炎症と免疫機構について②
14	確認とまとめ
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	一般臨床医学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	蛇原 慎太郎	教員区分	一般教員

教科書	「一般臨床医学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「内科診断学」 医学書院、「内科学」 朝倉書店
成績評価	定期試験による。
留意事項	柔道整復学の各講義・実習と関連付けて学習すること。講義の録音・撮影は禁止する。

科目の目標	重要な疾患概念の把握・理解と、臨床に向けての知識の集約。
授業概要	教科書の項目を中心に解説する。授業内容は目安であり進み具合で変更する。

日程

回 数	授業内容
1	診察概論、診察各論 一 問診（医療面接）
2	観診①（全体を捉える）
3	観診②（局所の観察）
4	打診、聴診、触診
5	生命徵候（血圧、脈拍、呼吸、体温）とその異常
6	知覚検査（知覚の神経科学的システム、検査の意義、異常）
7	反射検査（反射の仕組みとその異常）
8	代表的臨床症状①（発熱、出血傾向、リンパ節腫脹）
9	代表的臨床症状②（意識障害、失神）
10	代表的臨床症状③（チアノーゼ、関節痛、肥満、るいそう、成長障害）
11	検査法①（生命徵候の測定）
12	検査法②（生理学的検査、画像診断、専門的検査）
13	復習①
14	復習②
15	定期試験
16	試験の解説

科 目	外科学概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	蛇原 慎太郎	教員区分	一般教員

教科書	「外科学概論 改訂第4版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業は教科書に沿って進めますので、事前に教科書を読んで参加してください。

科目の目標	柔道整復師として必要な外科学の知識を学ぶ。
授業概要	病態や治療、手技を解剖学的側面・外科学的側面から学ぶ。授業の進行度合いに応じて、国家試験出題基準の項目を中心に行うこともある。

日程

回 数	授業内容
1	損傷、創傷、熱傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック
5	輸血、輸液
6	消毒と滅菌、手術
7	麻酔、移植と免疫
8	出血と止血、心肺蘇生法
9	脳神経外科疾患
10	甲状腺・頸部疾患、乳腺疾患
11	胸壁・呼吸器疾患
12	心臓、脈管疾患
13	腹部外科疾患
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	加藤 大明	教員区分	一般教員

教科書	「昇段審査のための柔道の形入門」 大泉書店
参考書	
成績評価	実技試験、出席点で評価する。
留意事項	実技中の安全管理。

科目の目標	精力善用、自他共栄の精神を学ぶ。 柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解する。 3年間で初段の習得を目指す。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを説く。

日程

回 数	授業内容
1	投の形「手技（浮落）」
2	投の形「手技（背負投）」
3	投の形「手技（肩車）」
4	投の形「手技」復習
5	投の形「腰技（浮腰）」
6	投の形「腰技（払腰）」
7	投の形「腰技（釣込腰）」
8	投の形「腰技」復習
9	投の形「足技（送足払）」
10	投の形「足技（支釣込足）」
11	投の形「足技（内股）」
12	投の形「足技」復習
13	投の形 総復習
14	実技試験
15	乱取・寝技
16	まとめ

科 目	柔道整復学各論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料プリント
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習、復習を怠らないこと。授業中の私語は絶対しないこと。

科目の目標	胸・背部の損傷、腰部の損傷、鎖骨部の損傷の各論を理解する。
授業概要	各部位の機能解剖を学び、疾患への理解を深め、各部位の症例に関する知識を習得していく。

日程

回 数	授業内容
1	胸・背部の解剖と機能 肋骨骨折
2	肋軟骨骨折
3	胸骨骨折
4	上部胸椎棘突起骨折 胸椎椎体骨折
5	胸椎部脱臼骨折 胸腰椎移行部脱臼骨折
6	胸背部の軟部組織損傷①
7	胸背部の軟部組織損傷②
8	腰部の軟部組織損傷①
9	腰部の軟部組織損傷②
10	鎖骨部の機能と解剖 鎖骨骨折①
11	鎖骨骨折②
12	胸鎖関節前方脱臼
13	肩鎖関節上方脱臼
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	高橋 洋一	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 医学書院
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 100%の出席を目指す。 2. 予習、復習を怠らない。 3. 授業中、私語は絶対しない。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。 4. ノートを用意すること。

科目の目標	発生機序や症状などから正確な診断ができるようになる。肩関節および上腕部における損傷の基本的な理論を学び、実技授業へのより深い理解へと役立てる。
授業概要	板書とプロジェクターで説明する。

日程

回 数	授業内容
1	肩関節部の損傷（解剖と機能）
2	肩関節部の損傷（肩甲骨の骨折）
3	肩関節部の損傷（上腕骨近位部の骨折）①
4	肩関節部の損傷（上腕骨近位部の骨折）②
5	肩関節部の損傷（肩関節脱臼）①
6	肩関節部の損傷（肩関節脱臼）②
7	肩関節部の損傷（軟部組織損傷）①
8	肩関節部の損傷（軟部組織損傷）②
9	肩関節部の損傷（注意すべき疾患）
10	上腕部の損傷（解剖と機能）
11	上腕部の損傷（上腕骨骨幹部骨折）①
12	上腕部の損傷（上腕骨骨幹部骨折）②
13	上腕部の損傷（軟部組織損傷）
14	上腕部の損傷（注意すべき疾患）
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論IV	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験より評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 予め教科書を読んで、読めない漢字を調べておく。 3. 復習はその日のうちにを行う。 4. 授業中、私語は禁止。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、配布プリントおよび板書にて進めていく。 授業開始時に前回の復習テストを行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回 数	授業内容
1	肘関節部の損傷 解剖と機能
2	肘関節部の損傷 上腕骨遠位端部の骨折①
3	肘関節部の損傷 上腕骨遠位端部の骨折②
4	肘関節部の損傷 前腕骨近位部の骨折
5	肘関節部の損傷 肘関節の脱臼①
6	肘関節部の損傷 肘関節の脱臼②
7	肘関節部の軟部組織損傷①
8	肘関節部の軟部組織損傷②
9	前腕部の損傷 解剖と機能
10	前腕部の損傷 前腕骨幹部骨折①
11	前腕部の損傷 前腕骨幹部骨折②
12	前腕部の軟部組織損傷①
13	前腕部の軟部組織損傷②
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	早川 周作	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	配布プリント
成績評価	実技試験、出欠席で評価する。(欠席: -5点 遅刻: -3点)
留意事項	毎回出席を原則とする。

科目の目標	理論・実技の教科書から重要な知識、技能を理解・修得できるように進める。 この科目では頸関節脱臼と徒手検査法を範囲とする。
授業概要	毎回、整復・固定、徒手検査法を中心に繰り返し練習する。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方、頸関節脱臼 - 整復法、固定法①
2	頸関節脱臼 - 整復法、固定法②
3	脊柱部の徒手検査法①
4	脊柱部の徒手検査法②
5	脊柱部の徒手検査法③
6	胸郭・上肢部の徒手検査法①
7	胸郭・上肢部の徒手検査法②
8	胸郭・上肢部の徒手検査法③
9	股関節・下肢部の徒手検査法①
10	股関節・下肢部の徒手検査法②
11	股関節・下肢部の徒手検査法③
12	神経・血管の徒手検査法
13	総復習
14	実技試験①
15	実技試験②
16	解答・解説

科 目	柔道整復各論実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	早川 周作	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	実技試験、出欠席で評価する。(欠席: -5点 遅刻: -3点)
留意事項	毎回出席が原則。実技中、私語は厳禁。

科目の目標	骨折部の転位をイメージすることができ、骨折の転位に対して理にかなった整復法が出来るようになる。
授業概要	骨折の整復法、固定法の習得を目指す。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方 鎖骨骨折一整復法・固定法
2	上腕骨外科頸骨折一整復法・固定法
3	上腕骨骨幹部骨折一整復法・固定法
4	上腕骨顆状骨折一整復法・固定法
5	上腕骨外顆骨折 上腕骨内側上顆骨折 肘頭骨折一整復法・固定法
6	モンテギア骨折一整復法・固定法
7	橈・尺両骨骨幹部骨折一整復法・固定法
8	コーレス骨折 スミス骨折一整復法・固定法
9	舟状骨骨折 ベネット骨折一整復法・固定法
10	中手骨骨幹部骨折 中手骨頸部骨折一整復法・固定法
11	指骨の骨折①一整復法・固定法
12	指骨の骨折②一整復法・固定法
13	総復習
14	実技試験①
15	実技試験②
16	解答・解説

科 目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	3 (年間)
		時間数	71
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	高橋 洋一 ・ 加藤 大明	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料配布
成績評価	レポート提出、出席状況、授業態度などで総合的に評価を行う。
留意事項	臨床実習要項を把握すること。詳細は授業内で説明する。

科目的目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目的に学習する。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、附属施術所において臨床的な授業を行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして、学生に基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回 数	授業内容
1・2	臨床実習の心構え／コミュニケーションについて
3・4	臨床模擬① 問診～初期施術法、後療法の組み立て
5・6	臨床模擬② 問診～初期施術法、後療法の組み立て
7・8	臨床模擬③ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
9・10	臨床模擬④ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
11・12	臨床模擬⑤ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
13・14	臨床模擬⑥ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
15・16	臨床模擬⑦ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
17・18	臨床模擬⑧ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
19・20	臨床模擬⑨ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
21・22	臨床模擬⑩ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
23・24	臨床模擬⑪ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
25・26	臨床模擬⑫ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
27・28	臨床模擬⑬ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
29・30	臨床模擬⑭ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
31・32	臨床模擬⑮ 問診～初期施術法、後療法の組み立て 中間評価
33・34	臨床模擬⑯ 問診～初期施術法、後療法の組み立て (夏期)
35・36	臨床模擬⑰ 問診～初期施術法、後療法の組み立て (夏期)

科 目	運動学 II	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「運動学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	運動学の概念を理解する。 運動器の構造と機能を理解する。
授業概要	運動器・神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動について学習する。

日程

回 数	授業内容
1	運動器の構造と機能（骨の構造と機能・関節の構造と機能）
2	運動器の構造と機能（骨格筋の構造と機能）
3	神経の構造と機能（神経細胞）、神経の構造と機能（末梢神経①）
4	神経の構造と機能（末梢神経②）
5	神経の構造と機能（中枢神経）
6	運動感覚（感覚と知覚・運動感覚と運動の制御機構）
7	反射と随意運動（反射①）
8	反射と随意運動（反射②）
9	四肢と体幹の運動（上肢の運動①）
10	四肢と体幹の運動（上肢の運動②）、四肢と体幹の運動（下肢の運動①）
11	四肢と体幹の運動（下肢の運動②）
12	四肢と体幹の運動（体幹と脊柱の運動）
13	四肢と体幹の運動（頸椎の運動、胸椎と胸郭の運動）
14	四肢と体幹の運動（腰椎、仙椎および骨盤の運動、顔面と頭部の運動）
15	定期試験
16	試験解説とまとめ

科 目	病理学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	特になし。
成績評価	定期試験（用語の穴埋め問題と国試形式選択問題）にて評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。
授業概要	病理学の基礎を確認しながら国家試験出題基準に準じた内容を教科書に沿って進めていく。

日程

回 数	授業内容
1	免疫の基本事項
2	細胞性免疫と液性免疫について
3	免疫異常の疾患・アレルギー5型について
4	腫瘍1 一般的性質 肿瘍細胞の特徴 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い
5	腫瘍2 形態学的分類
6	腫瘍3 悪性腫瘍の特徴について
7	先天性異常1 遺伝情報の基本事項
8	先天性異常2 遺伝性疾患
9	先天性異常3 染色体異常による疾患・胎児障害
10	病因1
11	病因2
12	病因3
13	病因4
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	一般臨床医学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	蛇原 慎太郎	教員区分	一般教員

教科書	「一般臨床医学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	特になし。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もありうる。

科目の目標	重要な疾患概念の把握と理解。
授業概要	教科書の項目を中心に解説する。

日程

回 数	授業内容
1	呼吸器疾患①
2	呼吸器疾患②
3	循環器疾患①
4	循環器疾患②
5	消化器疾患
6	肝・胆・脾疾患
7	代謝・栄養疾患
8	内分泌疾患①
9	内分泌疾患②
10	血液・造血器疾患①
11	血液・造血器疾患②
12	腎・尿路疾患
13	復習①
14	復習②
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	分野区分	専門基礎
	講義又は実習の区分	講義
	履修区分	必修
	単位数	2
	時間数	32
	履修年次	2年次
	実施学期	後期
教員名	蜷原 慎太郎	教員区分
		一般教員

教科書	「整形外科学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もありうる。

科目の目標	柔道整復師として診察に従事する上で必要な運動器疾患についての知識を習得する。
授業概要	代表的な運動器疾患について、その病態、症状、診断、治療等を概説する。

日程

回 数	授業内容
1	整形外科とは、運動器の基礎知識、整形外科診察法①
2	整形外科診察法②、整形外科検査法①
3	整形外科検査法②、整形外科的治療法①
4	整形外科的治療法②、骨・関節損傷総論①
5	骨・関節損傷総論②、スポーツ整形外科総論①
6	スポーツ整形外科総論②、リハビリテーション総論
7	疾患別各論（感染性疾患、骨腫瘍①）
8	疾患別各論（骨腫瘍②、軟部腫瘍）
9	疾患別各論（非感染性軟部・骨関節疾患、全身性の骨・軟部疾患①）
10	疾患別各論（全身性の骨・軟部疾患②、骨端症①）
11	疾患別各論（骨端症②、四肢循環障害）
12	疾患別各論（神経・筋疾患①）
13	疾患別各論（神経・筋疾患②）
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

科 目	基礎柔道実技IV	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	加藤 大明	教員区分	一般教員

教科書	「昇段審査のための柔道の形入門」大泉書店
参考書	特になし。
成績評価	実技試験、出欠席状況にて評価する。
留意事項	実技中の安全管理。

科目的目標	精力善用、自他共栄の精神を学ぶ。 柔道整復師として基本的な柔道の心・技・体について理解する。 3年間で初段の習得を目指す。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを説く。

日程

回 数	授業内容
1	投の形「手技（浮落・背負投）」、立技「手技（背負投）」
2	投の形「手技（肩車）」、立技「手技（体落）」
3	投の形「手技」、立技「手技」復習
4	投の形「腰技（浮腰・払腰）」、立技「腰技（大腰）」
5	投の形「腰技（釣込腰）」、立技「腰技（払腰）」
6	投の形「腰技」、立技「腰技」復習
7	投の形「足技（送足払）」、立技「足技（大内刈）」
8	投の形「足技（支釣込足）」、立技「足技（小内刈）」
9	投の形「足技（内股）」、立技「足技（支釣込足）」
10	投の形「足技」、立技「足技」復習
11	立技 総復習
12	投の形 総復習
13	実技試験①
14	実技試験②
15	解説
16	まとめ

科 目	衛生学・公衆衛生学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	白川 正順	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「人口動態統計」厚生労働省
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	疑問点などは講義後に質問し、必ず理解すること。

科目の目標	地域の公衆衛生活動の推進者となる柔道整復師の役割を理解する。正確な知識と医療従事者としての真摯な態度をもって適切な保険医療活動を実践できる能力を養う。
授業概要	講義は教科書を通して行う。 参考資料として資料を配布する。毎回、講義後に小テストを実施する。

日程

回 数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生学活動 健康の概念 衛生統計
2	疾病予防と健康管理 痘学
3	感染症の予防①（病原微生物と感染症法）
4	感染症の予防②（感染症の予防対策）
5	消毒①（消毒法の種類 消毒の原理）
6	消毒②（各種消毒法の特徴）
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	柔道整復学各論V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	1. 教科書を必ず持参する。 2. 予習、復習を怠らない。 3. プロジェクターで説明する。 4. 授業中、私語・居眠りは絶対しない。

科目の目標	手関節部・手部・指部の損傷および疾患を学び、各論を理解する。
授業概要	各部位の機能解剖を学び、損傷の理解を深め手関節部、手部および指部の症例に関する知識を習得していく。

日程

回 数	授業内容
1	前腕骨遠位端部骨折①
2	前腕骨遠位端部骨折②
3	手根骨部の骨折①
4	手根骨部の骨折②
5	手関節部の脱臼
6	手関節部の軟部組織損傷
7	中手骨部の骨折①
8	中手骨部の骨折②
9	手根中手関節の脱臼
10	指骨の骨折
11	中手指節関節・指節間関節の脱臼①
12	中手指節関節・指節間関節の脱臼②
13	手部・指部の軟部組織損傷①
14	手部・指部の軟部組織損傷②
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論VI	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	長島 茂之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改定第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 「運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）第2版」メジカルレビュー社
成績評価	小テストと定期試験（マークシート）にて評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	下肢の解剖を理解し、総論を元に各損傷について理解、説明が出来ることを目標とする。
授業概要	教科書、補足資料、スライド、模型による授業を行う。

日程

回 数	授業内容
1	骨盤骨単独骨折
2	小テスト①、骨盤輪骨折、大腿骨近位端部骨折
3	小テスト②、大腿骨近位端部骨折（骨頭部骨折、頸部骨折①）
4	小テスト③、大腿骨近位端部骨折（頸部骨折②、転子部骨折）、股関節脱臼（後方脱臼）
5	小テスト④、股関節脱臼（前方脱臼、中心性脱臼）
6	小テスト⑤、股関節の軟部組織損傷（鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾瘡股）
7	小テスト⑥、股関節の軟部組織損傷（梨状筋症候群、股関節拘縮）
8	小テスト⑦、股関節の軟部組織損傷（注意すべき疾患）、大腿骨骨幹部骨折①
9	小テスト⑧、大腿骨骨幹部骨折②、大腿部打撲
10	小テスト⑨、大腿部の肉ばなれ、大腿部骨化性筋炎、膝関節について
11	小テスト⑩、大腿骨遠位端部骨折①
12	小テスト⑪、大腿骨遠位端部骨折②、下腿骨近位端部骨折（脛骨頸部骨折）
13	小テスト⑫、下腿骨近位端部骨折（脛骨頸間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折）
14	膝関節脱臼、まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論VII	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜資料を配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	1. 全出席を目指す。 2. 予習や各授業内容を理解し復習を心がける。 3. 授業中の私語は慎み、不明な点があれば挙手をしてその都度質問する。

科目の目標	膝関節から足部までの骨折・脱臼・軟部組織損傷について発生機序や症状を機能解剖と合わせて学習し、臨床力の基礎となることを目標とする。
授業概要	下肢における骨折・脱臼・軟部組織損傷について解説する。また、下肢の機能解剖、臨床現場で必要な検査法も合わせて理解できるよう授業を進めていく。

日程

回 数	授業内容
1	授業ガイダンス 膝関節部の機能解剖
2	膝蓋骨骨折・脱臼
3	膝関節部の軟部組織損傷①
4	膝関節部の軟部組織損傷②
5	下腿部の機能解剖、下腿骨幹部の骨折
6	下腿部の軟部組織損傷①
7	下腿部の軟部組織損傷②
8	足関節部の機能解剖
9	足関節の下腿骨遠位部骨折と足関節の脱臼①
10	足関節の下腿骨遠位部骨折と足関節の脱臼②
11	足部の足根骨骨折
12	足関節部の脱臼
13	足根骨部の軟部組織損傷
14	定期試験前総復習
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	柔道整復学各論VIII	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 復習はその日のうちにを行う。 3. 不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。 3. 各物理療法の使用法、適応と効果および注意と禁忌を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論および後療法における物理療法を教科書に沿って配布プリント、板書にて進めていく。授業開始時に前回の復習テストを行う。

日程

回 数	授業内容
1	足・趾部の解剖と機能
2	足根骨の骨折
3	中足骨・趾骨の骨折
4	足根部の脱臼と軟部組織損傷①
5	足根部の脱臼と軟部組織損傷②
6	中足趾節関節・趾節間関節の脱臼、足・趾部の軟部組織損傷①
7	足・趾部の軟部組織損傷②
8	足・趾部の軟部組織損傷③、注意すべき疾患
9	物理療法① 分類、安全対策
10	物理療法② 電気療法
11	物理療法③ 溫熱療法
12	物理療法④ 光線療法 寒冷療法
13	物理療法⑤ 牽引療法 その他
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技III	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	早川 周作	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	実技試験、出欠席状況にて評価する。(欠席: -5点 遅刻: -3点)
留意事項	実習着を着用すること。

科目の目標	それぞれの外傷にあつた整復法、固定法が行えるようになる事。
授業概要	上肢脱臼および骨折の整復法、固定法を行う。

日程

回 数	授業内容
1	肩鎖関節脱臼①(整復法・固定法)
2	肩鎖関節脱臼②(整復法・固定法)
3	肩関節前方脱臼①(整復法・固定法)
4	肩関節前方脱臼②(整復法・固定法)
5	肘関節後方脱臼(整復法・固定法) 肘内障(整復法)
6	PIP関節背側脱臼(整復法・固定法)
7	第1指 MP関節背側脱臼(整復法・固定法)
8	上腕骨外顆骨折、内側上顆骨折(固定法)
9	モンデギア骨折(固定法)
10	舟状骨骨折(固定法)
11	中手骨頸部骨折①(固定法)
12	中手骨頸部骨折②(固定法)
13	基節骨基部骨折(固定法)
14	定期試験①
15	定期試験②
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技IV	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	早川 周作	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	実技試験、出欠席状況にて評価する。(欠席: -5点 遅刻: -3点)
留意事項	実習着を着用すること。下履きは短パン。

科目の目標	それぞれの外傷にあった整復法、固定法が行えるようになる事。
授業概要	下肢骨折・脱臼の整復法、固定法を行う。

日程

回 数	授業内容
1	大腿骨頸部骨折(整復法)
2	大腿骨骨幹部骨折(搬送時固定、整復法)
3	膝蓋骨骨折(固定法)
4	下腿骨骨幹部骨折①(PTB ギブス)
5	下腿骨骨幹部骨折②(PTB ギブス)
6	下腿骨骨幹部骨折③(PTB ギブス)
7	下腿骨骨幹部骨折④(PTB ギブス)
8	果部骨折(搬送時固定)
9	踵骨体部骨折(整復法、固定法)
10	第5中足骨基部裂離骨折(整復法、固定法)
11	足趾の骨折(整復法、固定法)
12	股関節脱臼・膝蓋骨脱臼・足趾脱臼(整復法)
13	まとめ
14	定期試験①
15	定期試験②
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	実技試験、出欠席状況にて評価する。(欠席: -5点 遅刻: -3点)
留意事項	毎回出席が原則。進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	各損傷に対する検査法・固定法・後療法を理解し、知識および技能を習得する。
授業概要	当科目では下肢の軟部組織損傷に対する実技を行う。各々が術者、患者、助手となり臨床の場を想定し検査法・固定法・後療法を行っていく。

日程

回 数	授業内容
1	大腿部筋損傷
2	膝関節前十字靱帯損傷①
3	膝関節前十字靱帯損傷②
4	膝関節内側側副靱帯損傷
5	半月板損傷
6	アキレス腱断裂①
7	アキレス腱断裂②
8	アキレス腱断裂③
9	下腿三頭筋損傷
10	足関節捻挫①
11	足関節捻挫②
12	足関節捻挫③
13	その他疾患
14	試験内容の確認と復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位 数	3 (年間)
		時 間 数	71
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	高橋 洋一 他	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出欠席状況、授業態度などにて総合的に評価を行う。
留意事項	臨床実習要項を把握すること。詳細は授業内で説明する。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目標とする。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、附属施術所において臨床的な授業を行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして、学生に基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回 数	授業内容
1・2	臨床模擬⑧ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
3・4	臨床模擬⑨ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
5・6	臨床模擬⑩ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
7・8	臨床模擬⑪ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
9・10	臨床模擬⑫ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
11・12	臨床模擬⑬ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
13・14	臨床模擬⑭ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
15・16	臨床模擬⑮ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
17・18	臨床模擬⑯ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
19・20	臨床模擬⑰ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
21・22	臨床模擬⑱ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
23・24	臨床模擬⑲ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
25・26	臨床模擬⑳ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
27・28	臨床模擬㉑ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
29・30	臨床模擬㉒ 問診～初期施術法、後療法の組み立て
31・32	臨床模擬㉓ 問診～初期施術法、後療法の組み立て中間評価

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	資料配布
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	毎授業内で確実に理解し、記憶していくこと。1回の授業を無駄にしない。

科目の目標	柔道整復師として必要な法の概念を理解する。各事項を確実に理解し国家試験への学力・理解力を養う。
授業概要	柔道整復師法を中心にその他の法を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	法の体系
2	柔道整復師法 1
3	柔道整復師法 2
4	柔道整復師法 3
5	柔道整復師法 4
6	柔道整復師法 5
7	医療従事者の資格法 1
8	医療従事者の資格法 2
9	医療従事者の資格法 3
10	医療従事者の資格法 4
11	医療法 1
12	医療法 2
13	社会福祉関係法
14	社会保険関係法
15	定期試験
16	まとめ

科 目	一般臨床医学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	永井 恒志	教員区分	一般教員

教科書	「一般臨床医学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	

科目的目標	疾患概念の認識と知識の定着。生理学的に関連付けて理解することを目標とする。
授業概要	教科書の項目を中心に解説する。授業内容は進み具合で変更することがある。

日程

回 数	授業内容
1	神経疾患①
2	神経疾患②
3	神経疾患③
4	感染症①
5	感染症②
6	膠原病①
7	膠原病②
8	膠原病③
9	膠原病④
10	アレルギー疾患
11	免疫不全
12	環境要因による疾患
13	復習①
14	復習②
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	整形外科学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	1 学期
教員名	蛇原 慎太郎	教員区分	一般教員

教科書	「整形外科学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定なし。
成績評価	定期試験により評価を行う。
留意事項	授業内容は進行状況等で、変更もありうる。ビデオ撮影は禁止する。

科目の目標	柔道整復師として診察に従事する上で必要な運動器疾患についての知識を習得する。
授業概要	代表的な運動器疾患についてその病態、症状、診断、治療等を概説する。

日程

回 数	授業内容
1	身体部位別各論（頸部） 頸椎の損傷・頸椎後縦靭帯骨化症・斜頸等
2	身体部位別各論（胸部、腰部） 胸椎の損傷・シムモール結節・側弯症等
3	身体部位別各論（腰部、肩） 腰椎の損傷・腰椎椎間板ヘルニア・肩関節骨折の手術
4	身体部位別各論（肩・肩甲帶） 肩関節・肩甲帶損傷・肩腱板損傷・野球肩等
5	身体部位別各論（肩・肩甲帶、上腕） スポーツ障害肩・上腕骨骨折等
6	身体部位別各論（上腕・肘関節） 離断性骨軟骨炎・肘関節内骨折等
7	身体部位別各論（前腕、手関節） 前腕の損傷・キーンベック病・T F C C
8	身体部位別各論（手・手指） 手指の手術・手指の変形・手指の拘縮及び先天異常
9	身体部位別各論（骨盤・股関節） 骨盤・股関節の損傷・先天性股関節脱臼・ペルテス病
10	身体部位別各論（大腿） 大腿部骨折の手術・大腿骨頭壊死・大腿骨頭すべり症
11	身体部位別各論（膝関節） 膝靭帯損傷・半月板損傷・分裂膝蓋骨等
12	身体部位別各論（膝・下腿・足関節） タナ障害・下腿足関節骨折の手術・シンスプリント
13	身体部位別各論（足・足趾） 足の変形・足の抹消神経障害・種子骨障害等
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

科 目	画像診断学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	大澤 美由紀	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない パワーポイント、プリントを使用
参考書	「画像解剖アトラス」 榮光堂、「解剖学スケッチ練習帳」 共立出版、 「図説単純X線撮影法」 金原出版、「異様放射線技術実験 臨床編」 共立出版
成績評価	定期試験により評価を行う。
留意事項	

科目的目標	X線、画像診断に関する基本的な知識の習得により、初步の画像診断ができるようになることを目標とする。
授業概要	画像診断学の画像とは、X線を中心とした放射線などを利用することにより得られる画像を意味する。従って、単にこの画像は何の画像であるという暗記にとどまらず、如何なる理論で画像が形成されているかも重視して授業を行う。項目として、単純撮影に関する画像診断、造影検査に関する画像診断、CTに関する画像診断等の講義内容の他、放射線医学にも触れる。講義での基礎理論を理解した上で画像診断力を身に着けて欲しい。

日程

回 数	授業内容
1	MRIの画像診断 1
2	X線の性質と画像診断の理論 超音波の理論
3	上肢・頭部の画像診断
4	胸部・下肢の画像診断
5	CTの画像診断 1
6	MRIの画像診断 2
7	CTの画像診断 2
8	造影と画像診断
9	腹部・骨盤の画像診断
10	MRIの画像診断 3
11	頸椎・胸椎・腰椎の画像診断
12	放射線医学（放射線医学と画像診断）
13	MRIの画像診断 4 MRIのまとめ
14	まとめ（重要項目、全体に共通した理論、補足説明など）
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	画像診断学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	林 達也 ・ 菱木 清	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。板書、パワーポイント、プリントを使用。
参考書	「画像解剖アトラス」 榎光堂、「解剖学スケッチ練習帳」 共立出版、 「図説単純X線撮影法」 金原出版、「医用放射線技術実験 臨床編」 共立出版
成績評価	定期試験により評価を行う。
留意事項	

科目の目標	X線、画像診断に関する基本的な知識の習得により、初步の画像診断ができるようになることを目標とする。
授業概要	画像診断学の画像とは、X線を中心とした放射線などを利用することにより得られる画像を意味する。従って、単にこの画像は何の画像であるという暗記にとどまらず、如何なる理論で画像が形成されているかも重視して講義を行う。項目として、単純撮影に関する画像診断、造影検査に関する画像診断、CTに関する画像診断等の講義内容の他、放射線医学にも触れる。講義での基礎理論を理解した上で画像診断力を身につけて欲しい。

日程

回 数	授業内容	
1	MR I の画像診断 1	(林)
2	X線の性質と画像診断の理論 超音波の理論	(菱木)
3	上肢・頭部の画像診断	(菱木)
4	胸部・下肢の画像診断	(菱木)
5	CT の画像診断 1	(林)
6	MR I の画像診断 2	(菱木)
7	CT の画像診断 2	(菱木)
8	造影と画像診断	(菱木)
9	腹部・骨盤の画像診断	(菱木)
10	MR I の画像診断 3	(林)
11	頸椎・胸椎・腰椎の画像診断	(菱木)
12	放射線医学(放射線医学と画像診断)	(菱木)
13	MR I の画像診断 4 MR I のまとめ	(林)
14	まとめ(重要項目、全体に共通した理論 補足説明など)	(菱木)
15	定期試験	(菱木)
16	試験解説	(菱木)

科 目	臨床柔道整復学VII	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	配布プリント
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全授業出席を前提とし、予習・復習を怠らないこと。 2. 授業中の私語は禁止。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。

科目の目標	下肢の軟部組織損傷についての各論を理解する。また、後半は下肢外傷についての応用的知識の習得を目標とする。
授業概要	下肢の軟部組織損傷について解説する。後半は柔道整復理論(各論)の下肢骨折、脱臼および軟部組織損傷について国家試験過去既出問題を用いて、重要な点を把握しながら進行する。

日程

回 数	授業内容
1	膝関節部の軟部組織損傷①
2	膝関節部の軟部組織損傷②
3	膝関節部の軟部組織損傷③
4	膝関節部の軟部組織損傷④
5	下腿部の軟部組織損傷①
6	下腿部の軟部組織損傷②
7	足部の軟部組織損傷①
8	足部の軟部組織損傷②
9	足部の軟部組織損傷③
10	足部の軟部組織損傷④
11	柔道整復各論 下肢①
12	柔道整復各論 下肢②
13	柔道整復各論 下肢③
14	柔道整復各論 下肢④
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	柔道整復各論実技IV	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	公益社団法人柔道整復研修試験財団 認定実技審査要領「平成30年度改定版」
成績評価	実技試験で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・整復法・固定法・検査法のスキルアップを図り、臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして、学生に基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回 数	授業内容
1	第5指中手骨頸部骨折（ボクサー骨折）の固定法〔アルミ副子掌側固定〕
2	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法〔アルミ副子背側固定〕
3	足関節外側靭帯損傷の固定法〔局所副子固定〕
4	膝関節内側側副靭帯損傷の固定法〔Xサポートテープ固定〕
5	足関節外側靭帯損傷の固定法〔テープ固定〕
6	肩腱板損傷の検査法
7	上腕二頭筋長頭腱損傷の検査法
8	膝関節側副靭帯損傷の検査法
9	膝関節十字靭帯損傷の検査法
10	膝関節半月板損傷の検査法
11	足関節外側靭帯損傷の検査法
12	総復習①
13	総復習②
14	実技試験①
15	実技試験②
16	試験解説

科 目	柔道整復応用実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	1 学期
教員名	二階 潤一郎	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編・理論編 改訂第2・5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料配布
成績評価	実技試験を中心出席状況（1欠席につき5点減点）、授業態度などで評価。
留意事項	実習着を着用。実習着の下はTシャツ。爪、装飾品などの容姿に留意。

科目の目標	理論で学んだ内容を、実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題、骨折を中心に行い、理論と実技の組み合わせで理解力を深める。

日程

回 数	授業内容
1	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法
2	コレス骨折 整復法
3	ハムストリングス損傷（肉ばなれ）・大腿四頭筋打撲 検査法
4	下腿三頭筋損傷（肉ばなれ） 検査法
5	上腕骨骨幹部骨折〔ミッテルドルフ三角副子固定〕 固定法
6	コレス骨折〔クラーメル副子と局所副子・三角巾固定〕 固定法
7	下腿骨骨幹部骨折〔クラーメル副子固定〕 固定法
8	下腿骨骨幹部骨折〔クラーメル副子固定〕 固定法
9	アキレス腱断裂〔クラーメル副子固定〕 固定法
10	アキレス腱断裂〔クラーメル副子固定〕 固定法
11	肋骨骨折〔さらしと厚紙副子固定〕 固定法
12	総復習
13	実技試験
14	実技試験
15	試験解説
16	まとめ

科 目	柔道整復応用実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	栗田 浩三	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編・理論編 改訂第2・5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料配布。
成績評価	実技試験で評価。
留意事項	実習着を着用。実習着の下はTシャツ。爪、装飾品などの容姿に留意。

科目的目標	理論で学んだ内容を、実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に行い、理論と実技の組み合わせで理解力を深める。

日程

回 数	授業内容		
1	鎖骨定型的骨折	肩鎖関節上方脱臼	① 整復法
2	鎖骨定型的骨折	肩鎖関節上方脱臼	② 整復法
3	肩関節前方鳥口下脱臼	①	整復法
4	肩関節前方鳥口下脱臼	②	整復法
5	肘関節後方脱臼	肘内障	① 整復法
6	肘関節後方脱臼	肘内障	② 整復法
7	復習		
8	鎖骨骨折		固定法
9	肩鎖関節上方脱臼		固定法
10	肩関節前方脱臼		固定法
11	肘関節後方脱臼		固定法
12	総復習		
13	実技試験		
14	実技試験		
15	試験解説		
16	まとめ		

科 目	医科学発展応用 基礎力重点コース①	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「第16回～第26回 柔道整復師 国家試験問題解答集」 桐書房
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において鑑別をする際に必要な知識を身につける。臨床的に対応できるよう理解を伴った知識の習得を目指す。選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。
授業概要	国家試験過去問題をもとに授業をおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	総合演習 1
2	総合演習 2
3	総合演習 3
4	総合演習 4
5	総合演習 5
6	総合演習 6
7	総合演習 7
8	総合演習 8
9	総合演習 9
10	総合演習 10
11	総合演習 11
12	総合演習 12
13	総合演習 13
14	総合演習 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	医科学発展応用 基礎力重点コース②	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	1学期
教員名	田代 雅人	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「第17回～第26回 徹底攻略 国家試験過去問題集」 医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての基礎的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な基礎的知識を身につける。これにより、医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識レベルと重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	柔道整復学 基礎的知識 1
2	柔道整復学 基礎的知識 2
3	柔道整復学 基礎的知識 3
4	柔道整復学 基礎的知識 4
5	柔道整復学 基礎的知識 5
6	柔道整復学 基礎的知識 6
7	柔道整復学 基礎的知識 7
8	柔道整復学 基礎的知識 8
9	柔道整復学 基礎的知識 9
10	柔道整復学 基礎的知識 10
11	柔道整復学 基礎的知識 11
12	柔道整復学 基礎的知識 12
13	柔道整復学 基礎的知識 13
14	柔道整復学 基礎的知識 14
15	定期試験
16	試験解説

科 目	外科学概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
教員名	永井 恒志	実施学期	2学期
		教員区分	一般教員

教科書	「外科学概論 改訂第4版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	動画の撮影は禁止する。

科目的目標	必要な外科学の知識を学ぶ。
授業概要	病態や治療、手技を解剖学的・外科学的側面から学ぶ。授業の進行度合いに応じて、国家試験出題基準の項目のみを中心に行うことがある。

日程

回 数	授業内容
1	損傷、創傷、熱傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック、輸血、輸液
5	消毒と滅菌、手術
6	麻酔、移植と免疫
7	出血と止血、心肺蘇生法
8	脳神経外科疾患
9	甲状腺・頸部疾患
10	胸壁・呼吸器疾患
11	心臓・脈管疾患
12	乳腺疾患
13	腹部外科疾患 1
14	腹部外科疾患 2
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	実技試験で評価
留意事項	実技中の安全管理

科目的目標	柔道整復師としての基本的な柔道の心、技について理解する。 併せて認定実技審査に向けての柔道実技を習得する。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得させる。

日程

回 数	授業内容
1	礼法 受身 投の形「浮落」 約束稽古
2	礼法 受身 投の形「背負投」 約束稽古
3	礼法 受身 投の形「浮腰」 約束稽古
4	礼法 受身 投の形「払腰」 約束稽古
5	礼法 受身 投の形「送足払」 約束稽古
6	礼法 受身 投の形「支釣込足」 約束稽古
7	礼法 受身 投の形「肩車」 約束稽古
8	礼法 受身 投の形「釣込腰」 約束稽古
9	礼法 受身 投の形「内股」 約束稽古
10	総合練習①
11	総合練習②
12	総合練習③
13	総合練習④
14	実技試験
15	試験解説
16	まとめ

科 目	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	小笠原 健文	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜参考資料を配布
成績評価	定期試験
留意事項	特になし

科目の目標	超高齢者社会を迎える医療従事者として一般医学の知識の習得および公衆衛生の推進者として保健医療活動の実践能力養成を目標とする。
授業概要	基本的にスライド、ハンドアウトを用いる。

日程

回 数	授業内容
1	公衆衛生活動、健康の概念について、疾病予防と健康管理について（一次～三次予防、集団検診など 復習）
2	感染症予防（種々の感染症、感染予防対策など 復習）
3	消毒：消毒、滅菌について（復習）
4	疫学：疫学の意義、調査方法
5	環境衛生：環境問題、環境要因、喫煙と健康、大気汚染
6	生活環境：水の衛生・水質汚染 食品衛生
7	母子保健：ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
8	学校保健：学校保健の意義、学校保健対策、保健教育
9	産業保健：産業保健の目的、労働災害、職業病
10	成人・高齢者保健：各種疾患の病態、認知症高齢者保健対策、介護保険
11	精神保健：精神の病気、精神保健活動
12	地域保健と国際保健：地域保健活動、保健に関する国際協力と世界保健機関
13	衛生行政と保健医療制度：衛生行政の概要、医療保険
14	医療倫理と医療安全：公衆衛生活動と倫理、医療事故
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床柔道整復学VI	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	田代 雅人	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「第18回～第27回 徹底攻略 国家試験過去問題集」 医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	欠席や遅刻をしないこと。

科目の目標	柔道整復理論の総論を復習し解剖学や生理学、また各部位の外傷の知識などと結び付け柔道整復師として必要な応用的知識を身に付ける。
授業概要	国家試験の過去問題をもとに、柔道整復師として重要な点を把握しその部分の知識を重点的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1	骨折総論①
2	骨折総論②
3	骨折総論③
4	骨折総論④
5	骨折総論⑤
6	骨折総論⑥
7	骨折総論⑦
8	骨折総論⑧
9	脱臼総論①
10	脱臼総論②
11	軟部組織損傷総論①
12	軟部組織損傷総論②
13	治療法総論
14	指導管理
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説 まとめ

科 目	臨床柔道整復学VIII	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「徹底攻略 国家試験過去問題集」 医道の日本社
成績評価	定期試験と小テストで評価する。
留意事項	国家試験の出題数が多い科目なので欠席をしないこと。

科目の目標	臨床の場において重要な柔道整復学各論についての知識を再度深める。
授業概要	国家試験過去問を部位別・出題傾向別に確認し解答解説する。

日程

回 数	授業内容
1	柔道整復各論復習 1
2	柔道整復各論復習 2
3	柔道整復各論復習 3
4	柔道整復各論復習 4
5	柔道整復各論復習 5
6	柔道整復各論復習 6
7	柔道整復各論復習 7
8	柔道整復各論復習 8
9	柔道整復各論復習 9
10	柔道整復各論復習 10
11	柔道整復各論復習 11
12	柔道整復各論復習 12
13	柔道整復各論復習 13
14	柔道整復各論復習 14
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復各論実技V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	二階 潤一郎	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編・理論編 改訂第2・5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料配布
成績評価	実技試験を中心出席状況（1欠席につき5点減点）、授業態度などで評価。
留意事項	実習着を着用。実習着の下はTシャツ。爪、装飾品などの容姿に留意。

科目の目標	理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に行い、理論と実技の組合せで理解力を深める。

日程

回 数	授業内容
1	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法
2	コレス骨折 整復法
3	ハムストリングス損傷（肉ばなれ）・大腿四頭筋打撲 検査法
4	下腿三頭筋損傷（肉ばなれ） 検査法
5	上腕骨骨幹部骨折【ミッデルドルフ三角副子固定】 固定法
6	コレス骨折【クラーメル副子と局所副子・三角巾固定】 固定法
7	下腿骨骨幹部骨折【クラーメル副子固定】 固定法
8	下腿骨骨幹部骨折【クラーメル副子固定】 固定法
9	アキレス腱断裂【クラーメル副子固定】 固定法
10	アキレス腱断裂【クラーメル副子固定】 固定法
11	肋骨骨折【さらしと厚紙副子固定】 固定法
12	総復習
13	実技試験
14	実技試験
15	試験解説
16	まとめ

科 目	柔道整復各論実技VI	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	認定実技審査要領「平成30年度改定版」 公益社団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し診察法・整復法・固定法のスキルアップを図り、臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回 数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折 診察法 整復法 固定法 ①
2	鎖骨定型的骨折 診察法 整復法 固定法 ②
3	肩鎖関節上方脱臼 診察法 整復法 固定法 ①
4	肩鎖関節上方脱臼 診察法 整復法 固定法 ②
5	肩関節前方鳥口下脱臼 診察法 整復法 固定法 ①
6	肩関節前方鳥口下脱臼 診察法 整復法 固定法 ②
7	肘関節後方脱臼 診察法 整復法 固定法 ①
8	肘関節後方脱臼 診察法 整復法 固定法 ②
9	肘内障 診察法 整復法
10	総復習①
11	総復習②
12	総復習③
13	実技試験①
14	実技試験②
15	試験解説
16	授業総括

科 目	柔道整復応用実技III	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	2 学期
教員名	田中 誠人	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	認定実技審査要領「平成30年度改定版」 公益社団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し固定法・診察法・検査法のスキルアップを図り、臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回 数	授業内容
1	第5指中手骨頸部骨折・手第2指PIP関節背側脱臼の固定法
2	膝関節内側側副靱帯損傷の固定法
3	足関節外側靱帯損傷の固定法（厚紙副子固定）
4	足関節外側靱帯損傷の固定法（テープ固定）
5	肩腱板損傷の診察法・検査法
6	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察法・検査法
7	膝関節側副靱帯損傷の診察法・検査法
8	膝関節十字靱帯損傷の診察法・検査法
9	膝関節半月板損傷の診察法・検査法
10	足関節外側靱帯損傷の診察法・検査法
11	固定法復習
12	診察法・検査法復習
13	実技試験①
14	実技試験②
15	試験解説
16	総復習

科 目	柔道整復発展評価法 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料配布
成績評価	実技試験ならびに授業態度、出欠席状況で評価する。
留意事項	毎回出席が原則。実技実習を受講する心構えでいること。

科目の目標	医療面接の流れを理解し患者に対する話し方および的確な評価方法の習得を目標とする。 各疾患の解剖学、検査法を理解する。
授業概要	術者役、患者役、助手役に分かれて臨床の現場を想定し評価（施術）しあう。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要説明 患者医療面接とは（問診、触診、検査法から評価への進め方）
2	ロールプレイングの要点 評価（四肢周径、四肢長、関節可動域、血圧測定）
3	上肢の損傷（手関節周囲）
4	ロールプレイング
5	上肢の損傷（肘関節周囲）
6	ロールプレイング
7	上肢の損傷（肩関節周囲）
8	ロールプレイング
9	下肢の損傷（股関節周囲および大腿部・下腿部）
10	ロールプレイング
11	下肢の損傷（膝関節周囲）
12	ロールプレイング
13	下肢の損傷（足関節） ロールプレイング
14	実技試験
15	試験解説
16	まとめ

科 目	医科学発展応用 基礎力重点コース③	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	7(年間)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	2学期
教員名	田代 雅人	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「第18回～第27回 徹底攻略 国家試験過去問題集」 医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより、医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	柔道整復学 臨床的知識 1
2	柔道整復学 臨床的知識 2
3	柔道整復学 臨床的知識 3
4	柔道整復学 臨床的知識 4
5	柔道整復学 臨床的知識 5
6	柔道整復学 臨床的知識 6
7	柔道整復学 臨床的知識 7
8	柔道整復学 臨床的知識 8
9	柔道整復学 臨床的知識 9
10	柔道整復学 臨床的知識 10
11	柔道整復学 臨床的知識 11
12	柔道整復学 臨床的知識 12
13	柔道整復学 臨床的知識 13
14	柔道整復学 臨床的知識 14
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復発展評価法Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	3学期
教員名	二階 潤一郎 ・ 佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂5版」 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験、出欠席状況、授業態度により総合評価を行う。
留意事項	理解を深められるよう、理論で修得してきた知識を事前に復習しておくこと。

科目の目標	今まで習得した各外傷の理論を再復習しながら、臨床における技術を習得し、知識をより深めることを目標とする。
授業概要	損傷の各論を視覚的情報から疾患名、施術方法を導きグループ活動でのケーススタディ方式で行う。それぞれの臨床上の留意点を確認しながら実施する。

日程

回 数	授業内容	
1	ケーススタディ 上肢損傷 1	(二階)
2	ケーススタディ 下肢損傷 1	(佐藤)
3	ケーススタディ 下肢損傷 2	(佐藤)
4	ケーススタディ 上肢損傷 2	(二階)
5	ケーススタディ 下肢損傷 3	(佐藤)
6	ケーススタディ 上肢損傷 3	(二階)
7	ケーススタディ 下肢損傷 4	(佐藤)
8	ケーススタディ 上肢損傷 4	(二階)
9	ケーススタディ 下肢損傷 5	(佐藤)
10	ケーススタディ 上肢損傷 5	(二階)
11	定期試験	(二階)
12	定期試験	(佐藤)
13	解説	(二階)
14	解説	(佐藤)
15	まとめ	(二階)
16	まとめ	(佐藤)

科 目	基礎力重点コース④	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	3学期
教員名	田代 雅人	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「第18回～第27回 徹底攻略 国家試験過去問題集」 医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認、理解する。

日程

回 数	授業内容
1	柔道整復学 臨床的知識 1
2	柔道整復学 臨床的知識 2
3	柔道整復学 臨床的知識 3
4	柔道整復学 臨床的知識 4
5	柔道整復学 臨床的知識 5
6	柔道整復学 臨床的知識 6
7	柔道整復学 臨床的知識 7
8	柔道整復学 臨床的知識 8
9	柔道整復学 臨床的知識 9
10	柔道整復学 臨床的知識 10
11	柔道整復学 臨床的知識 11
12	定期試験
13	試験解説
14	柔道整復学 臨床的知識 12
15	柔道整復学 臨床的知識 13
16	柔道整復学 臨床的知識 14

科 目	基礎力重点コース⑤	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	3学期
教員名	田中 敦・熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	全国柔道整復学校協会監修 教科書全般
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な基礎的・臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認、理解する。

日程

回 数	授業内容	
1	柔道整復理論 基礎演習 1	(田中)
2	柔道整復理論 応用演習 1	(熊澤)
3	柔道整復理論 基礎演習 2	(田中)
4	柔道整復理論 応用演習 2	(熊澤)
5	柔道整復理論 基礎演習 3	(田中)
6	柔道整復理論 応用演習 3	(熊澤)
7	柔道整復理論 基礎演習 4	(田中)
8	柔道整復理論 応用演習 4	(熊澤)
9	柔道整復理論 基礎演習 5	(田中)
10	柔道整復理論 応用演習 5	(熊澤)
11	定期試験	(熊澤)
12	定期試験	(田中)
13	柔道整復理論 応用演習 6	(熊澤)
14	柔道整復理論 基礎演習 6	(田中)
15	柔道整復理論 応用演習 7	(熊澤)
16	柔道整復理論 基礎演習 7	(田中)

科 目	基礎力重点コース⑥	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	3学期
教員名	永井 恒志 ・ 田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	全国柔道整復学校協会監修 教科書全般
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な基礎的・臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認し、理解する。

日程

回 数	授業内容	
1	柔道整復学理論－総論 応用復習 1	(永井)
2	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 1	(田中)
3	柔道整復学理論－総論 応用復習 2	(永井)
4	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 2	(田中)
5	柔道整復学理論－総論 応用復習 3	(永井)
6	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 3	(田中)
7	柔道整復学理論－総論 応用復習 4	(永井)
8	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 4	(田中)
9	柔道整復学理論－総論 応用復習 5	(永井)
10	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 5	(田中)
11	定期試験	(田中)
12	定期試験	(永井)
13	柔道整復学理論－総論 応用復習 7	(田中)
14	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 6	(永井)
15	柔道整復学理論－総論 応用復習 8	(田中)
16	柔道整復学理論－組織損傷 各論復習 7	(田中)

科 目	基礎力重点コース⑦	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	3学期
教員名	加藤 大明 ・ 春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	全国柔道整復学校協会監修 教科書全般
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な基礎的・臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認、理解する。

日程

回 数	授業内容	
1	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 1	(加藤)
2	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 1	(春日)
3	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 2	(春日)
4	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 2	(加藤)
5	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 3	(春日)
6	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 3	(加藤)
7	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 4	(春日)
8	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 4	(加藤)
9	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 5	(春日)
10	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 5	(加藤)
11	定期試験	(加藤)
12	定期試験	(春日)
13	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 6	(加藤)
14	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 6	(春日)
15	柔道整復理論－運動器障害 総論復習 7	(加藤)
16	柔道整復理論－運動器障害 各論復習 7	(春日)

科 目	基礎力重点コース⑦	分野区分	総合領域
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	3学期
教員名	小林 匠・加藤 大明	教員区分	一般教員

教科書	全国柔道整復学校協会監修 教科書全般
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な基礎的・臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認、理解する。

日程

回 数	授業内容	
1	柔道整復理論－運動器障害 各論復習1	(小林)
2	柔道整復理論－運動器障害 総論復習1	(加藤)
3	柔道整復理論－運動器障害 総論復習2	(加藤)
4	柔道整復理論－運動器障害 各論復習2	(小林)
5	柔道整復理論－運動器障害 総論復習3	(加藤)
6	柔道整復理論－運動器障害 各論復習3	(小林)
7	柔道整復理論－運動器障害 総論復習4	(加藤)
8	柔道整復理論－運動器障害 各論復習4	(小林)
9	柔道整復理論－運動器障害 総論復習5	(加藤)
10	柔道整復理論－運動器障害 各論復習5	(小林)
11	定期試験	(小林)
12	定期試験	(加藤)
13	柔道整復理論－運動器障害 各論復習6	(小林)
14	柔道整復理論－運動器障害 総論復習6	(加藤)
15	柔道整復理論－運動器障害 各論復習7	(加藤)
16	柔道整復理論－運動器障害 総論復習7	(加藤)